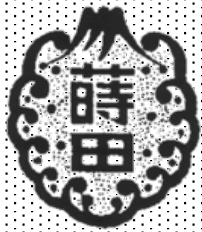


学校教育目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」



まいた

令和8年度

夏休み号

令和8年7月17日

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/maita/>

夏休みの思い出

校長 鳥飼信幸

せんげつごう か なつやす はい わたし おも こ なつやす びょうき じこ がなく げんきに
先月号に書きました、夏休みに入ります。私の思いは子どもたちが夏休みに病気やけが、事故がなく元気に
とうこう しょうこう どの こ じゅうじつ ひび す ねが なに じぶん ちょうせん
登校してくること、そして、どの子も充実した日々を過ごすことを願っています。何か自分が挑戦したいことに
と く きかい どうぞ かてい こ けんこうかんり あんぜんかんり み ほう
取り組むよい機会です。どうぞご家庭におかれましてはお子さんの健康管理や安全管理、よさを見つけたら褒めて
ください。また、子どもたちはいつもより時間に余裕があるので、おとなから「対話」してみてください。

ほごしゃ ちいき みなさま ほさか ちゅうしん おうえんたい みなさま さとう ちゅうしん がくえんたい みなさま
保護者、地域の皆様、穂坂さんを中心とするこどもみらい応援隊の皆様、佐藤さんを中心とする学援隊の皆様、
とうこうはん せわ こうがいいん みなさま きょういくいいんかい みなさま く やくしよ かたがた けいさつ せんもんきかん きぎょう
登校班でお世話お世話になっている校外委員の皆様、教育委員会の皆様、区役所の方々、警察、専門機関、企業、
だいがくなど みなさま 4つき ほんこう しえん なたやす きかんちゅう ひ つづき こ
大学等などの皆様、4月から本校へのご支援ありがとうございます。夏休み期間中も、引き続き子どもたちを
あた た みまも かんしや
温かく見守っていただけることに感謝いたします。

さて、わたし 4ねんせい なつやす しゅくだい さくぶん さくぶん なに か
さて、私の4年生の夏休み、宿題で作文がありました。作文といっても何を書いていいのかさっぱり…。そこで、
いつも あそ やきゅう のことを書くことにしました。たの たいけん じゆうに か
いつも遊んでいる野球のことを書くことにしました。楽しかった体験を自由に書きました。小さくて狭く、遊具もある
こうえん で、どうやって野球をするのか友達と話し合ったこと、アイデアを出し合い、どうしたら楽しく野球ができるのか
ルールをつかったこと、わたし ともだち たの やきゅう
ルールをつかったこと、私も友達も楽しく野球ができたことなどなど。

きしやうてんけつ もなく、じじつ かん かんけいなく、ご じだつじ ともだち やきゅう たの
起承転結もなく、事実と感じたことも関係なく、誤字脱字もたくさんありました。とにかく友達と野球を楽しんだこ
とを 素直に 書きました。授業ではなかなか書けないのに…。

いま まで ない たいさく か じゅうじつかん いきようよう せんせい ていしゅつ
今までにない大作を書いた充実感があり、意気揚々と先生に提出しました。

つぎ ひ たんにん せんせい とりかい よ だ なに か おも
次の日、担任の先生から「鳥飼さん」と呼び出されました。「いつものように何かやらかしたかな?」と思いました。
「この 作文、よく書けてるじゃないか」と言われました。「やらされた」ではなく じぶん から 意欲をもって書いた 初め
の 作文 でした。

その ひ から、ほうかご いのこ か なお はじ ひ か しゅうせい はい か なお
その日から、放課後、居残りで書き直しが始まりました。その日に書いては修正が入り、書き直しを
く か え ほうかご おも いっぱう じぶん か さくぶん ほ
繰り返しました。「もう勘弁してよ」と思ったぐらいです。一方、「自分が書いた作文が褒められた」「この先生に
みと 認めてもらった」という気持ちをはたらいていたこともありました。何十枚書き直したかわかりません。先生が「よく
書けている」「がんばったな」と言いました。なんとか書きあがりました。

ほんとう わたし かの わる さくぶん さくぶん せんせい おも せんせい
本当は私のできの悪い作文をちゃんとした作文にするには、先生もたいへんだったと思います。先生は、けっして
「ダメだ」とか、「なんでできないんだ」とは言いませんでした。修正はあるもののちょっとしたことや修正してきたこ

とをいつも褒めてくれました。そして、「ここを直したら、鳥飼さんの気持ちがもっと表われるよ」と言っていました。

先生が作文コンクールに出展したようで、大きな賞状が届きました。校長室に呼ばれ、校長先生から賞状を渡されました。校長先生に何か質問をされましたが、国語の力がなく語彙力がないことと、校長室という環境だったせいなのか、作文のことを忘れてしまっていたせいなのか、うれしいやがんばったことも話せませんでした。

実は、夏休み中、野球で遊んでいることに夢中になり過ぎて、母のことを忘れてしまうことがしばしば…。病弱な母だったので、買い物をするときなど、心配なのでいっしょに行っていました。

弟は遊びを途中で切り上げて家に帰り、母といっしょに買い物に行っていました。野球が楽しくて、夢中になって、時間も約束も忘れて遊んでいた私。一方で、弟は、私が帰ってくるのを待ちながら、病弱な母のそばにいてくれていました。

私は自分中心で、遊びや野球が優先、何時になっても家に帰らないことが多かったです。ある日、野球で遊んでいる私のところへ険しい表情で弟が来ました。「お母さんが…」と言うのです。「お母さんがなんや!」と言いました。弟は私の腕をつかんで走り出しました。温厚な弟のいつもと違う行動に、「お母さんになんかあった」と察しました。心配で心配でたまりませんでした。弟といっしょにけんめいに走りました。母のもとへ着くまで時間が長く感じました。周りの人たちが心配で声をかけていました。弟と二人で「お母さん」と叫びました。すると、座っている母が「心配せんでよか」と言いました。周りの人たちにお礼を言っていました。母の姿を見つけた時、張りつめていた気持ちが一気にあふれました。「なかんでよか」と母は小さな声で言いました。そう言って微笑んだ母の顔を見て、私はただ涙を流すことしかできませんでした。

母は自分が苦しい時でも、いつも私たち兄弟のことを心配していました。弟もまた、何も文句を言わず、いつも母を支えていました。そして私は、そのことに気づかないまま、自分の楽しさばかりを優先していました。幼いながらも、自分の身勝手さを初めて痛いほど感じた瞬間でした。

そんなことがあった夏休みに書いた作文です。反省を込めて、母と弟に賞状を見せました。「よかったね」と母が言いました。弟には、私が反省していることを言ったわけではないけれど、私の反省を込めた意味を理解しているかのように、「お兄ちゃん、よかったね」と言うくれました。「先生のおかげたい」と、母は言っていました。副賞は弟にプレゼントしました。夏休みの終わりにいただいた賞状は、確かにうれしいものでした。でも、本当に私を成長させてくれたのは賞状ではありません。何度も何度も作文を書き直させながら、決して私を否定せず、小さな成長を認め続けてくださった先生との出会いでした。そして、どんな時も私を信じ、支えてくれた母と弟の存在でした。

今になって思います。あの賞状は、私一人がもらったものではありません。何度も励ましてくれた先生と、いつも見守ってくれた母と弟と、みんなでもらった賞状だったのです。

母はもうこの世にはいません。けれど、校長になった今でも、子どもたちの作文を読んでいると、あの夏の日を思い出します。一人の先生が認めてくれたことで、自信をもてた私がいきました。一人の母が心配しながらも見守ってくれたことで、ラグビーで更生しましたがまっすぐ育つことができた私がいきました。一人の弟が支えてくれたことで、大切なことに気づけた私がいきました。

今年度の国際スピーチコンテスト、本校の代表は南区で優秀賞となりました。事前に代表者のスピーチ原稿を読ぶときにも、いつものように思い出しました。原稿には、自分の成長を支えられてきた文章がありました。「言葉の違いからつらい思いをしました。しかし、理解し支えてくれた人たちのおかげで前向きになれました。この経験から、差別や偏見をなくすためには、相手を理解しようとする気持ちが大切だと学びました。これからは私も、互いを

尊重し支え合える社会づくりに貢献したいと思います。」人権尊重・多様性の理解・共感・思いやり・主体的な社会参画、「多様性を尊重し、相手を理解しようとする共生社会の実現を目指す態度」が、この作文で最も評価できる価値です。私たち大人も学ぶべき内容です。私の4年生の担任の先生が私の成長を支えてくださったように、谷川先生の温かな指導が、このような人を思いやる心のこもった作文につながったのだと思います。

だからこそ私が伝えたいこと。夏休みは、楽しい思い出をつくることも大切です。また、人の優しさに気づき、自分を支えてくれている人の存在に気づき、少し成長するための大切な時間でもあります。夏休みが終わった時、子どもたち一人ひとりが、自分だけの「大切な思い出」を胸に、元気に学校へ戻ってきてくれることを心から願っています。そしてその時、ご家族との何気ない時間が、いつの日か人生を支える大切な思い出になっていることを願っています。

ちなみに、小さくて狭く、また遊具もあって、ボールがすぐに外へ出てしまうような公園。大人になってその公園へ行くと、「こんなところで野球をやってたんだ」と驚きました。そんな環境でしたが、中学校では野球部のキャプテンとなりました。

実はこの経験が後のラグビーにいかされることになります。

【お知らせ】

保護者の皆様へ

今年度の「どきスポ(どきどきスポーツフェスティバル)」は、「みんなが活躍できる場を ～主体的・創造的などきスポの実現に向けて～」をテーマに実施します。

子どもたちは、自分やブロック(1・2年、3・4年、5・6年)・学年・学級のめあてをもち、友達の願いや思いに寄り添いながら、仲間と協力して活動を創り上げていきます。また、体育の学習などで身に付けた力を生かし、見通しをもって主体的に取り組むことで、達成感や自己肯定感を高めることを目指しています。

今年度は、運動が得意な子、運動が苦手な子など、より多くの子どもたちが活躍し、協力する喜びを味わえるよう、リレー競技などを見直し、新たにブロックごとの団体競技を取り入れます。さらに、表現活動を充実させ、一人ひとりが輝くことのできる場を大切にしていきます。

保護者の皆様には、勝敗や結果だけではなく、子どもたちが仲間と力を合わせる姿、最後まであきらめずに挑戦する姿、そして自信をもって表現する姿に温かいご声援をお願いいたします。また、練習中からご家庭でもお子様の頑張りや成長、友達との協力の様子について話題にさせていただき、励ましの言葉を掛けていただければ幸いです。

皆様の温かな見守りと励ましが、子どもたちの自信やさらなる成長につながります。子どもたちが創り上げる「どきスポ」を、ともに支えていただきますようお願いいたします。

学校施設に関する工事について

今年度は7～10月にかけて、①給食室側外壁工事、②最上階断熱改修工事、③体育館空調設置工事があります。特に夏休み期間には、体育館や校庭の使用は制限され、学校周辺において工事車両の出入りが増えることが予想されます。

学校施設を安全に維持・改善する工事となりますので、地域のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。